

◆ 基本目標3 生涯学習の充実 ◆

基本的施策 1

多種多様な学びの機会の提供



整理番号	3-1-1	社会のさまざまな学習ニーズに対応した 公民館事業を推進します	事業区分(方向性)	
担当課	生涯学習課		C: 継続	
現状と課題				
<p>社会環境が急激に変化する中、すべての人が生きがいを持って社会に参加し、長い人生を豊かに送るためには、時代の変化に応じた「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境」が求められます。</p> <p>公民館の重要な役割として新しい時代の多様な価値観を学ぶ場を提供し、市民のライフステージに応じた学習活動を支援することが挙げられます。公民館が行う事業は、市民の継続的な学習の動機づけとなり、ここで学んだことが地域に還元されることをめざしています。「にぎわいの里のいちカミーノ」が中央(野々市)公民館を含む新しい複合施設として整備され、これまで以上に使いやすく、常に多くの人々が集う魅力ある施設として注目を集めています。</p> <p>公民館事業の一つ、寿大学校では、熟年者自身が明るく豊かで生きがいのある生活を送るため、高齢社会における課題を把握し、知識や教養を身につけること、仲間とのふれあいの場をつくることを目的に講座が開催されています。</p> <p>公民館では、市民の自主的な学習活動を重視し、サークルや社会教育関係団体の活動を支援しています。その学びの成果発表の場として、毎年「ののいちマナビィフェスタ」を開催しており、展示やステージ発表、ワークショップなどを行い、学習意欲の向上につなげています。</p> <p>また、昨今、地域のつながりの希薄化が問題となっている中、地域住民の親睦を深め、健康を増進することを目的として、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が参加できる地区運動会を実施しています。幅広い層の市民が町内会ごとに競い合うことで地域に連帯意識が芽生えることが期待されます。</p>				
事業の方向性				
<p>市民のニーズや地域課題に合った学びの機会を提供し、市民が学んだ成果が地域社会に還元されるように努めます。そのために、サークル活動の新規登録についての周知や相談受付、「にぎわいの里のいちカミーノ」での「ののいちマナビィフェスタ」の開催、地区運動会における、誰もが楽しめる競技メニューの開発などを行っていきます。</p>				
具体的な取組				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館自主事業の開催(寿大学校、各地区公民館の講座等) ・ サークル活動の支援、新規登録についての周知及び相談受付 ・ 学びの成果発表としての「ののいちマナビィフェスタ」の実施 ・ 地区運動会の開催 ・ 現代的なテーマの学習講座等の実施(例: 情報リテラシー、SDGs、防災、ハラスメント等) 				
成果指標名	単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
生涯学習施設における主催行事の開催数	回/年	114	160	公民館、女性センターでの開催数

整理番号	3-1-2	市民の読書活動とさまざまな学びを支える 図書館サービスの充実を図ります	事業区分(方向性)
担当課	生涯学習課		C: 継続

現状と課題

平成29年度に、新図書館の「学びの杜のいちカレード」が整備されたことで市民の読書環境は大きく向上しました。電子書籍の貸出も開始し、「いつでも」「どこでも」「誰でも」自由に学べる環境の整備が一步前進しました。さらに、音楽や調理、美術制作、ギャラリー等のさまざまな市民活動に対応できる諸室を備えた市民学習センター機能が融合しており、市民が新たな学びにチャレンジするきっかけとなっています。

カレードでは、あらゆる年代の市民が読書に親しむための取組や、市民の来館を促すための事業を行っています。なかでも子どもを対象とした読書活動推進の取組に力を入れており、市内の学校や保育園をはじめとした関係機関とともに、ボランティアの協力も得ながらブックスタートなどを実施しています。

今後も、図書館を活用した学びが活発に行われるように、蔵書などの充実や職員の資質の向上を図ることが求められます。また、より多くの方が図書館サービスを受けられるよう、工夫する必要があります。

事業の方向性

図書館は単に図書を利用するだけの施設ではなく、幅広い学習ニーズに対応できる有益な施設と位置づけます。また、「いつでも」「どこでも」「誰でも」自由に学べる環境を整えるため、オンラインサービスなども取り入れた新たな時代のサービスのあり方を重視していきます。

具体的な取組

- ・ 市立図書館及び市民学習センターの運営
- ・ 電子図書館の充実
- ・ 市民の読書活動の推進(ブックスタート、読書に関連した催事等)
- ・ 図書ボランティアの養成及びボランティアによる取組の実施
- ・ 県内外の図書館との相互貸出等の連携協力

成果指標名	単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
市立図書館貸出冊数(電子書籍含む)	冊/年	533,094	676,000	

◆ 基本目標3 生涯学習の充実 ◆

基本的施策 2

さまざまな世代の社会
参画と交流機会の提供

整理番号	3-2-1	市民が共に学び合う場を創出します	事業区分(方向性)
担当課	生涯学習課		C: 継続

現状と課題

地域のつながりが薄れつつある現在において、社会教育には、人づくりのみならず、地域住民の絆が強まるつながりづくりの役割が期待されていることから、市では、市民が主体となって学びの場をつくる活動を支援しています。

平成15年度に開設された「ののいちコミュニティカレッジ」は、市内及び近郊の大学と連携して、現代社会や地域の課題に対応した学習の場を市民に提供する事業です。公募の企画委員自らが講座のテーマを設定するため、より受講者のニーズに沿った講座が実施できます。また、市民が講座の企画・運営を行うことで、まちづくりに携わるきっかけとなることも期待できます。「ののいちコミュニティカレッジ」は18歳以上の市民または市内勤務者及び通学者が対象となっていますが、高年齢の受講者が多く、より幅広い世代に多様な学びを提供する必要があります。

にぎわい創出という地域課題の解決をめざし、令和元年度に新たに発足した事業企画推進協議会は、地域の隠れた魅力を発見しながら、ワークショップや展示を通して学びの成果を地域の人々と共有する活動を行っています。

学びのサポーターは、豊富な知識や経験、技能を持つ一般市民を登録し、地域の学習会の講師選定などに役立ててもらう取組で、さまざまな分野の活動に精通した市民が登録しています。

これらの活動を進めていくうえで、市民が主体的に学ぶ機会や、社会での活躍の機会を求める声が、高齢化が進む社会を背景に高まると予想されます。同時に、旧北国街道(野々市中央地区)のにぎわい創出や、地域ぐるみで子どもたちを育てていくコミュニティ・スクールなどの市全体で取り組む新たな課題が生じていることから、市民の活躍が期待される場も広がると考えられます。豊富な知識や経験を持つ人材の確保に加え、新たな発掘及び育成も重要です。募集に当たっては、活動の魅力や意義をわかりやすく伝えることが大切です。

事業の方向性

意欲ある地域人材の活用を今後も進めるとともに、その活動を支援していきます。また、コミュニティカレッジにおいて、あらゆる世代の市民にとって魅力ある講座が開かれるよう、世代ごとの企画委員会の立ち上げに取り組みます。

具体的な取組

- ・ 市民大学校事業(ののいちコミュニティカレッジ等)
- ・ 学びのサポーターの募集及び活用の推進
- ・ 事業企画推進協議会の取組の推進

成果指標名	単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
学びのサポーター登録者数	人/年	25	55	
市民大学校事業の参加者数	人/年	624 (R1)	800	コミュニティカレッジ、公開講演会等

※【市民大学校事業の参加者数】R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、事業内容を制限したため、R1年度の数値を記載。

整理番号	3-2-2	社会教育関係団体の自主的、自発的な活動を支援します	事業区分(方向性)
担当課	生涯学習課		C : 継続
現状と課題			
<p>地域の活動に参画し、世代間交流や地域の課題を地域で解決する活動を行っている団体(女性協議会、子ども会育成連絡協議会、PTA連合会等)に対し、イベント開催時における運営補助などの支援を行っています。</p> <p>今後は、団体活動の自主性、自発性に重きを置いた支援を行い、行政と団体が対等なパートナーシップを構築していく必要があります。</p>			
事業の方向性			
<p>各団体が今後も自主的、自発的に活動が継続できるように支援し、必要に応じて新規の団体への支援についても検討していきます。</p>			
具体的な取組			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主活動の実施にかかる支援 ・ 地域行事への参加支援 			



女性協議会



壁新聞コンクール展

◆ 基本目標3 生涯学習の充実 ◆

基本的施策 3

生涯学習施設の利用促進



整理番号	3-3-1	生涯学習施設が十分な機能を保持するように努め、 利用を促進します	事業区分(方向性)		
担当課	生涯学習課		C: 継続		
現状と課題					
<p>公民館や女性センター等の生涯学習施設は、地区住民を中心に、市民の幅広い利用があります。利用者が安全に施設を利用できるよう、適切かつ計画的に施設を維持管理していく必要があります。</p> <p>平成26年度には富奥公民館(富奥防災コミュニティセンター)、平成29年度には「学びの杜のいちカレード」、令和元年度には「にぎわいの里のいちカミーノ」がリニューアルオープンしました。カレードとカミーノの建設は、官民連携によるPFI方式が採用されました。その他の施設はその都度必要に応じて修繕を行い、施設利用者が安全に施設を活用できるよう維持管理しています。</p> <p>今後も利用者が安全かつより便利に施設を利用できるよう、適切かつ計画的に施設を維持管理していくとともに、市民の希望や時代の変化に合わせ、時間や空間にとらわれず、「いつでも」「どこでも」「誰でも」学べる環境を整備する必要があります。</p>					
事業の方向性					
<p>「公共施設個別施設計画」に基づき、施設を適切に維持管理するとともに、市民の希望や時代の変化に応じて、時間や空間にとらわれず、「いつでも」「どこでも」「誰でも」学べるようにICT環境の整備に努めます。また、施設機能の利便性を周知することで利用を促進します。</p>					
具体的な取組					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習施設の計画的な維持管理 ・ 新たなニーズに合わせた施設環境の整備(ICT化等) ・ 市ホームページやパンフレット等を活用した施設の利便性のPR 					
成果指標名		単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
公民館、市民学習センター(カレード)、女性センター利用者数		人/年	94,213	200,000	

整理番号	3-3-2	まちづくりの拠点として、カレード、カミーノの積極的活用を図ります	事業区分(方向性)
担当課	生涯学習課 地域振興課 市民協働課		A: 拡大・重点化

現状と課題

本市では、市の中心部に当たる「野々市中央地区」において、ヒト、モノが出会い、交流し、にぎわいを創出する二つの拠点が整備されました。にぎわい創出はまちづくりにおける重要なテーマであり、「学びの杜ののいちカレード」及び「にぎわいの里ののいちカミーノ」では、屋内及び屋外スペースを活用して、市及び市内の団体がイベントなどを開催し、多くの来場者が訪れています。

今後は、より一層のにぎわい創出のため、これらの施設をさまざまなイベントなどに使いやすくしていく必要があります。

また、市民のまちづくりに関する自主的な活動を促すため、市民活動センターにおける登録団体への支援拡充や人材育成、貸室におけるWeb会議などの新たな利用形態への対応などを行っていく必要があります。

事業の方向性

カレード及びカミーノに関わる、市の所管課及び運営事業者、観光物産協会等が連携協力し、施設の活用機会の拡大に向けて検討します。

また、事業企画推進協議会の活動を通して、施設の利用による野々市中央地区のにぎわい創出に取り組めます。

具体的な取組

- ・ 関係者との定期的な情報共有及び施設の活用機会の拡大に向けた協議
- ・ 市ホームページやパンフレット等を活用した施設の利便性のPR
- ・ 市民活動センター登録団体への助言や相談受付、研修機会の提供等の支援
- ・ 野々市中央地区のにぎわい創出事業と施設の連携
- ・ 地域課題をテーマとした講座等の開催



市民協働のまちづくり市民会議



ののいちGENKI
イルミネーションプロジェクト